後期高齢者の自伝的記憶におけるバンプの特徴

○田中京子¹・原口雅浩²・稲谷ふみ枝³

(¹久留米大学心理学研究科・²久留米大学文学部・³鹿児島大学大学院)

キーワード：後期高齢者、自伝的記憶、バンプ

Characteristics of the reminiscence bump in the autobiographical memory of the old-old

Kyoko TANAKA¹, Masahiro HARAGUCHI², Fumie INATANI³

(¹Graduate School of psychology, Kurume Univ., ²Faculty of Literature, Kurume Univ.,

³Graduate School of Clinical Psychology, Kagoshima Univ.)

Key Words: the old-old, autobiographical memory, reminiscence bump

問 題

自伝的記憶とは、人が人生において経験した出来事の記憶である（佐藤，2010）。高齢者の自伝的記憶の生起分布の特徴として、10代や20代の時期の記憶が最も想起されるレミニセンス・バンプ（以下、バンプ）現象がある（榎・仲，2006）。バンプが起こる原因の一つにアイデンティティ説があり（榎，2008），青年期の記憶が人生における記憶の中で大きな役割を担い、バンプの時期の記憶が自伝的記憶の中核をなすといえる。バンプを構成する記憶の特徴を明らかにすることは、自伝的記憶を理解するうえで重要である。

田中・原口・稲谷（2013）は、一般的に用いられている単語（以下、一般手がかり語）と感覚に関する単語（以下、感覚手がかり語）を用いて、75歳以上の後期高齢者に自伝的記憶を想起させ、最も想起された10代の記憶内容を、出現頻度の高いことばやことばとことばの結びつきにより分析した。その結果、一般手がかり語では、戦争に関する出来事もあるが、家庭や学校生活に関する出来事が、感覚手がかり語では、視覚や聴覚と結びついた戦争に関する出来事が想起された。第2次世界大戦の経験がバンプの内容に影響しており、バンプの記憶内容の特徴を検討するためには、コホートの異なる世代との比較検討が必要である。

そこで、本研究では、戦争を経験していない50歳以上の中年者と65歳以上の前期高齢者として比較し、後期高齢者の10代の記憶の内容の特徴を明らかにする。

方 法

調査協力者 中年者18名（M=57.7, SD=4.2）、前期高齢者17名（M=71.6, SD=3.8）、後期高齢者22名（M=80.5, D=3.17）。

調査期間 中年者と前期高齢者は2010年6月から8月まで、後期高齢者は2012年2月から6月までであった。

刺激材料 中年者と前期高齢者は一般手がかり語（例：花、海）を13個、感覚手がかり語（例：色、光）を11個用いた。後期高齢者は、両手がかり語とも6個用いた。

手続き 個別に聴き取り調査を行い、手がかり語ごとに、手がかり語から想起された出来事とその時期の年齢を尋ねた。

分析方法 10代に経験した出来事の内容を、KH Coder（樋口，2004）を用いて形態素に分類した。次に、形態素のうち、名詞、サ変名詞、形容動詞、副詞、形容詞を用いて、中年者、前期高齢者および後期高齢者の記憶内容の特徴づける関連語検索および対応分析を行った。

結果と考察

表1と表2は中年者、前期高齢者および後期高齢者の10代の出来事の特徴づける上位10語である。中年者と前期高齢者は父母および家族とのふれあい、友達とのかわりに関する語が抽出され、後期高齢者は父母とのふれあいや学校の先生とのかわり、戦争、特にB29による空襲に関する語が抽出された。

また、対応分析の結果、抽出された特徴語の第1次元の位置関係をみると、両手がかり語とも、中年者と前期高齢者は

表1 特徴語上位10語：一般手がかり語

中年者		前期高齢者		後期高齢者	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
友達	.092	友達	.096	父	.092
家	.057	本	.052	母	.063
犬	.055	好き	.046	人	.051
水	.037	畑	.036	学校	.035
近所	.036	木	.036	空襲	.032
花	.034	小学校	.035	戦争	.028
家族	.031	近所	.035	先生	.023
初めて	.030	花	.034	光	.020
自宅	.030	兄	.030	仕事	.020
先生	.030	登山	.030	相撲	.016

表2 特徴語上位10語：感覚手がかり語

中年者		前期高齢者		後期高齢者	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
母	.112	母	.088	空襲	.048
友達	.105	好き	.058	B29	.043
家	.094	初めて	.044	料理	.037
父	.056	音	.042	学校	.036
音	.045	本	.030	光	.036
小学校	.039	香り	.029	戦争	.030
声	.039	叔父	.022	戦時中	.025
自然	.030	多い	.022	時代	.024
練習	.030	明かり	.022	怖い	.024
中学校	.030	実家	.022	電気	.024

負側に、後期高齢者は正側に布置されたことから、中年者と前期高齢者は内容が比較的似通っているに対して、後期高齢者の内容は中年者や前期高齢者とはやや異なるといえる。

これらのことから、バンプの時期である10代の記憶の特徴は、後期高齢者は非日常である戦争体験が中心であるが、中年者や前期高齢者は日常生活における出来事であることが明らかとなった。

対応分析における布置の位置関係が出生年代やその時代背景の違いによるものか、あるいは後期高齢者という発達段階における特徴なのかを探るためには、今後は、戦争を経験していない世代が後期高齢者に該当する時期に追調査する必要がある。

引用文献

田中京子・原口雅浩・稲谷ふみ枝（2013）．後期高齢者の自伝的記憶におけるバンプの記憶の特徴，日本福祉心理学会第11回大会発表論文集，62．